

住田町立有住中学校 第1学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和3年9月29日(水) 2校時
場 所 住田町立有住中学校 多目的ホール
学 級 第1学年13名(男11名・女2名)
授業者 山内薫・中渡昭徳・志田竜彦

1 単元名 第2単元「調査をしよう！」

2 単元について

(1) 題材について

本単元では、住田町で活躍している人物や企業の願いを知り、改めて住田町の地域資源を調査することにより、住田町の魅力について考え、気づくことを目標としている。また、調査活動を2回行うことで、より深い探求活動ができるように時間を保障するとともに、取材内容や方法の見直しを図り2回目の調査に挑むことができる等、生徒にとって貴重な体験学習となるように単元を構成している。

授業の取扱いは、全23時間となっているが、生徒の実態に配慮しつつ、住田型探求的のプロセスをもとに学習活動に取り組ませている。学習活動は、フィールドワーク、インタビュー、ポスターセッション、異年齢交流などを取り入れ、多様な学習体験を積み重ねながら社会的実践力の育成を図っていく。

また、地域創造学を進めるにあたって、住田町の魅力の捉え方が重要となることから、魅力の意味について考えさせる等、様々な見方・考え方を身につけさせながら探求できるように工夫している。

(2) 生徒について

調査活動前に「住田の魅力は何か」と尋ねると、抽象的に説明することができても、具体的に魅力を説明できる生徒は少なかった。第1単元の職種異なるゲストティーチャーを招いての交流会は、住田町の魅力について考える機会が不足していた生徒にとって、他者の考える魅力にふれる良い機会となった。

第1回調査活動では、仲間と協力してインタビューを行ったが、事前の準備不足もあり取材を行うことが精一杯だった。また、中間発表会では、2年生から、質疑応答の内容発表が中心で「住田町の魅力が伝わってこない。」と指摘され、調査目的の希薄さや質問内容の乏しさ、魅力を表現できていない現状など、第2回調査活動に向けて多くの課題があることに気づくことができた。

生徒は、始め本学習における他者との関わりの多さに戸惑いも見られたが、徐々に順応している。他者との関わりは、住田の魅力を探求するうえで欠かせない要素であり、社会的実践力を育む重要な基盤となっていることから、人との関わりを大切にさせたい。

(3) 指導にあたって

生徒の実態を考慮し、それぞれの調査活動の諸条件を変え実施する。また、生徒自身の1回目の調査活動のふりかえりと他者の助言をもとに企画書を作成し、2回目の調査活動に臨ませる。

1回目の調査活動では、住田町ではなく「有住の魅力」をテーマとしたが、生徒それぞれの「魅力」の捉えに差異があり、抽象的な調査活動になったことから、調査の目的である「有住の魅力」をより意識させ、2回目の調査活動に取り組ませたい。また、取材対象との基本的なやりとりに課題が見られた

め、講師を招きインタビューの仕方や情報の伝え方等の取材方法を学ばせる。2回目の調査活動においては、調査活動を2人で行うことで取材対象とふれあう機会を増やすとともに、個人の役割分担を明確にした責任ある学習としたい。

本時は、2回目の調査活動の企画書を完成させることを課題とするが、自分達の目指す企画書を意識させながら、他のグループのアドバイスやそこからの気づきを取り入れ、企画書を完成させることができるように指導していきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

	資質能力の分類	資質能力別の目標
社会的実践力	A【地域理解】	○住田町で活躍している人や企業の願い、住田町の地域資源の魅力について、改めて気づくことができる。
	B【社会参画に関する資質能力】	○住田町で活躍している人や企業の願い、住田町の地域資源の魅力についての気づきを広めたり深めたりするために、調査（第一回）の項目・方法の成果・課題を明らかにし、より良い調査項目・方法を選択することができる。
	C【人間関係形成に関する資質能力】	○他者からのアドバイスを踏まえ、自分達の調査の項目・方法の成果と課題を具体的にあげることができる。
	D【自立的活動に関する資質能力】	○自分達の調査項目・方法の成果と課題を明らかにし、課題を改善するためのアイデアを提案することができる。

(2) 評価規準

☆汎用的スキル ★態度・意欲・学びの価値

資質能力		評価規準	
A ◎地域理解	【◎地】	・住田町で活躍している人や企業の願い、住田町の地域資源の魅力について、調査等を通して改めて気づき、プリント等にまとめようとしている。	
B 社会参画に関する資質能力	2 ☆多角的・多面的に考える力 【☆多】	・住田町で活躍している人や企業の願い、住田町の地域資源の魅力についての気づきを広めたり深めたりするために、調査（第一回）の項目・方法の成果・課題を明らかにしようとしている。	
	5 ★困難を解決しようとする心 【★困】	・住田町で活躍している人や企業の願い、住田町の地域資源の魅力についての気づきを広めたり深めたりするために、調査（第一回）の振り返りを踏まえて、より良い調査項目・方法を選択しようとしている。	
C 人間関係形成に関する資質能力	3 ★他者受容 【★他】	・他者からのアドバイスを踏まえ、調査（第一回）の項目・方法の成果と課題を具体的にしようとしている。	
D 自立的活動に関する資質能力	1 ☆感じ取る力 【☆感】	・自分達の調査項目・方法の成果と課題を明らかにし、課題を改善するためのアイデアを提案しようとしている。	

4 単元の指導・評価計画（本時 第19時／全23時間）

月	小単元名	プロセス	時	主な学習活動	関連する教科・領域	評価項目（評価方法）
6・7	調査をしよ	情報収集	2	○調査する方法（インタビュー、フィールドワーク、文献調査など）の決定 ・専門家から、調査する方法などを学ぶ。 ・調査する方法を決定する。	【特別活動 学級活動】	・C3 ★他者受容（チェックリスト）

7 ・ 8	計画する 見通しを持つ	3	○調査（第一回）に向けての準備 ・交通手段等を確認する。 ・質問事項などをまとめる。 ・インタビュー等が必要な場合、アポイントをとる。 ・質問練習をする。	【国語 話 すこと 聞 くこと】	
7 ・ 8		実施・改善 4	○調査（第一回）の実施 ・実際に調べる。 ・振り返りをする。		
8 ・ 9	調査の成果と課題を明らかにしよう！ まとめ 問題の理解 振り返り 現状把握	4	○中間報告に向けての準備 ・発表資料を作成する。 ・発表練習をする。		
9		3	○中間報告の実施 ・2年生に対して発表する。（相互交流含む） ・振り返りをする。		
9	調査内容を深めよう！ 計画する 見通しを持つ	3 本時	○調査（第二回）に向けての準備 ・取材の仕方を専門家から学ぶ。 ・調査（第一回）の成果・課題をふまえ、調査対象・項目・方法を決定する。 ・調査に向けた準備をする。		
10		実施・改善 4	○調査活動（第二回）の実施		

・A ◎地域理解
(個人内評価)

・B 2 ☆多面的・多角的に考える力
(ループリック)

・B 5 ☆困難を解決しようとする心
(行動観察、ワークシート)

・D 1 ☆感じ取る力
(行動観察、ワークシート)

・A ◎地域理解
(個人内評価)

◎本単元におけるループリック(第16時)

パフォーマンス課題	・1回目の調査項目や方法について、成果と課題を明らかにする。
みとる資質能力	・B 2 ☆多角的・多面的に考える力
パフォーマンスの特徴	A ・質疑応答を繰り返しながら、自分達の取材やまとめ方に対しての成果と課題をつかみ、記述したり発言したりしている。
	B ・質疑応答を繰り返しながら、自分達の取材やまとめ方に対しての成果と課題を整理し、記述することができる。
	C (支援の手立て) ・発表原稿をもとに報告させ、質疑応答に参加させる。答えられなかった質問に対しては、取材が不足していたことを自覚させ、次回の取材にいかしていくことを指導する。また、どのような取材方法(映像に残す、体験する等)がよいのかも考えさせる。

5 本時の指導

(1) 目標

グループ交流でのアドバイスや気づきを取り入れながら、自分達の目指す企画書を完成させることができる。

【 自律的活動に関する資質能力 D 1 ☆感じ取る力 】

(2) 評価について

みとる資質・能力	項目	支援の手立て
D1 感じ取る力	・グループ交流でのアドバイスや、気づきを取り入れながら、自分達が目指す取材活動をするための企画書を完成することができる。	・自分たちの目指す取材活動になっているかを確認させながら企画書を作成させる。

(3) 展開(50分)

段階	学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ◆評価
導入 3分	1 前時の振り返り 2 学習課題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">2回目の取材に向けて、企画書を完成させよう。</div>	・2回目の取材活動を、1年生としてどのようなものにしたいか、確認したことを振り返り意識させる。
展開 42分	3 企画書をグループで交流する。 (1)グループ間での交流 ・各10分間ずつ3回交流する。 (2)取材グループで企画書の仕上げ	・企画書は、グループごとに事前に作成しておく。 ・他のグループの企画書を読んで、気になる所等をチェックし、それをもとに交流する。 ・改善点を指摘するだけでなく、自分達が目指す企画書にするために、一緒に考えるという姿勢を持たせたい。 ・交流が停滞した時には、自分達がどんな取材活動にしたいのかを振り返らせ、必要な質問等が盛り込まれているかを考えさせる。 ・交流したことを取り入れながら、企画書を仕上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ◆評価 D1 感じ取る力 グループ交流でのアドバイスや、気づきを取り入れながら、自分達が目指す取材活動をするための企画書を完成することができる。 (行動観察、ワークシート) </div>
まとめ 5分	4 振り返り ・今日の振り返り 5 次時の学習内容の確認	・取材グループごとに今日の授業を振り返り、どんな取材にしたいかを発表する。 ・次時は、取材に行くことを確認する。